

# 保護者のみなさまのご質問に お答えします。

学校の現場の方から、保護者としてどのように考え、どのように子どもたちに接したらよいかを伺いました。

## 親は、子どもの自立を促す存在であってほしい。

最近、「誓約書 ノ ススメ」を提唱しています。大学入学時、子どもに誓約書を書いてもらい、「大学を卒業したら、保護者は一切の面倒をみない」と約束するのです。人生を力強く歩んでいくためには、「親離れ・子離れ」をしっかりと意識することも大切です。

お答えくださる方 女子栄養大学常任理事 そめや 染谷 ただひこ 忠彦さん



### プロフィール

国際教養大学大学入学試験委員会委員、高等学校の評議員等兼務。現在は、進路指導勉強会、保護者会、学校経営セミナー等の講演活動も精力的に行っている。先駆的な入試改革と斬新な広報活動を展開。国際教養大学開学に際してはアドバイザーとして準備段階から関わる。

## Q 子どもの進路選びに、保護者は関わるべきでしょうか？

A 子どもは進路決定にあたり誰に相談するかというと、最後に保護者と先生が一番多いのです。よく「自分の好きにきなさい」「したいことをきなさい」と言う保護者もありますが、そうした言葉に対して子どもは“突き放されている”“自分に関心がない”と思ってしまう。思春期の子育てに大切なのは、「進路」を一緒に考えること。ただし、保護者はあくまでも相談役です。最後の決定は、子どもに任せましょう。他人が決めると何か問題があったときにその人の責任にしまいます。社会に出れば難題は自分で解決しなければなりません。今から、物事の決断ができるように促していきましょう。

## Q 大学を選ぶときに、注意することは何ですか？

A 子どもはそれぞれ学力が違います。一般的には少しでも難易度の高い大学がいいと思いがちですが、自分の好きな分野で自分の力に合った大学を選ぶべきです。一番大切なのは、教育環境(学生が静かに勉強している大学)がしっかりしていることです。勉強をしに行くのですから。

## Q 保護者もオープンキャンパスや学校説明会に参加すべきですか？

A 保護者の役割は、子どもにアドバイスをすることです。そのためには、正確な教育現場の認識がないと正しいアドバイスができません。保護者が進路選択をした20数年前と現在では、教育現場は大きく変わっていますから、直接その状況を確認することは大切なことです。

学校を訪ねる場合は、親子一緒でも別々でもいいのですが、お薦めしたいのは一緒に出かけて、学校に入ってからは別々に行動する方法。一緒に行動すると、どうしても一方の見方や考えに偏ってしまいがちになります。

帰りに待ち合わせて、それぞれの見てきたこと、感じたことを話し合おうと、違う視点から検討することができます。

## Q 会場説明会にも行ったほうがよいでしょうか？

A 会場説明会は、多様な情報を入手できるチャンスなので、ぜひ参加してください。しかし、残念ながら保護者の方たちは、資料コーナーに駆け寄るなど、資料を集めることに気が向いているようです。せっかく多くの学校が参加しているのですから、時間が許すかぎり各校のコーナーに座り、話を聞きましょう。子どもが希望する分野、大学だけではなく、他分野、他の学校の話も聞いてください。5校も聞けば、現在の教育現場の全体像がつかむことができ、ちょっとしたスペシャリストになるはずです。

## Q 子どもと意見が違う場合は、どうしたらわかってもらえますか？

A “子どもの考えは違う”と思っても、まずは子どもの意見を尊重すべきです。いきなり否定して、親の意見を押しつけてはいけません。我慢が大切です。そんなときこそ、保護者として、大人として、子どもを受け入れる姿勢をもちましょう。一度、十分に受け入れて、その後で「自分はこう考える」と親の考え方を話すべきです。子どもとのコミュニケーションはそこから始まります。

## Q 受験に向けて、普段から保護者ができることはありますか？

A 受験には、本人の力量だけではなく保護者(家庭)のバックアップが欠かせません。責任があると書いてもいいくらいです。たとえば、推薦入試の判定基準となる出欠状況や、面接で試験官である大人と話す際の態度には、保護者や家庭の状況が自然に映し出されるのです。一般入試でも、朝起きて夜寝る、食事を3食摂るといったしっかりとした「生活リズム」の子どもは、そうではない子どもより得点が高い傾向にあるといわれています。適切なコミュニケーションと、規則正しく健康な生活づくりを心がけてください。